

ポラリスを仰ぐ北の大地から



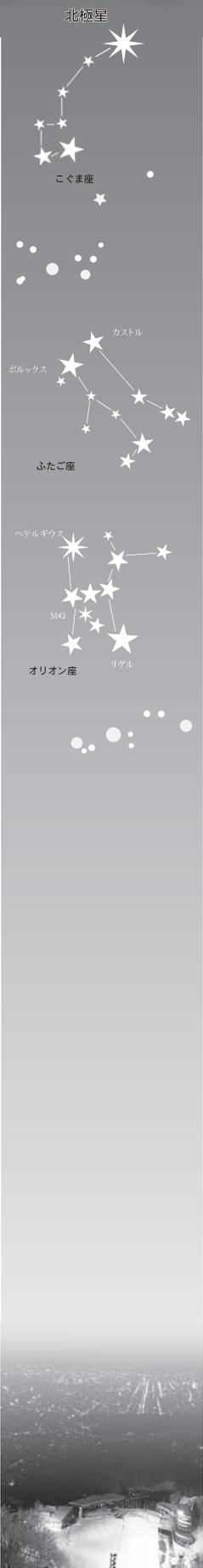
新任医師との交流会

檜山医師会 会長 鶴谷 隆司

檜山医師会は江差町他4町の医療圏にあり、道立江差病院が中核として唯一の地域センター病院、二次救急医療病院としての役割を担っています。道立江差病院はほとんどの医師が札幌医科大学の医局からの派遣であり、毎年春頃、全医師の半数以上が交代となります。道立病院に雇われている患者もせっかく医師と患者の関係が築かれたと思うと、またすぐに医師が変わってしまうことに戸惑っている人が少なからずおり、また同様にせっかく築いた医師同士のつながりも1年で途切れてしまいます。この小さな医療圏において何とか皆で協力して当地の医療連携を円滑に進めていくためにお互いが顔の見える関係を作りたいと思い、3年前より毎年5月下旬に、当医師会の会員と道立江差病院の新任医師との交流会を行っています。交流会では江差追分の師匠による唄や当地の観光スポットの案内ビデオを上映し、その後皆での歓談の時間となります。このような催しを行うことによって少しでも病診連携がうまくいくことを願っています。

江差に赴任してくる若い医師の中には、本心ではこんな田舎の町には来たくはなかったと思っている者も多いのではないかと想像します。私達も昔大学の医局の派遣により田舎の病院に赴任した時、このような思いを少なからず持ったものです。しかし今では大変貴重な体験だったと思っています。小さな病院であるからこそ得られる経験もたくさんありました。また全科が一つの医局であるため、他科の先生たちと遠慮なく色々な相談もすぐにでき、それらは今でも自分にとっては大きな財産であり、診療の幅を広げてくれていたと思っています。

今春から循環器科の医師が2名より1名になり、また外科医の補充が無くなることとなりました。今更後戻りできないのは重々わかっていますが医局の医師派遣機能を衰退させた新医師臨床研修制度は確実に地域医療を崩壊させています。



歴史は繰り返す

深川医師会 会長 成田 昭彦

人は同じ間違いを何度でも繰り返す。今般「テロ等準備罪」が閣議決定し、国会に法案提出された。今まで何度も提出され廃案となった「共謀罪」が名前を変えただけのことである。誰もが戦前の治安維持法を想起させる。今国会での政府答弁が、1925年の治安維持法を巡る国会答弁と、まったくウリ二つ。治安維持法はその後拡大解釈され、法改正して思想言論統制の戦前最大の悪法となり、戦争への道を突き進んだのは誰もが知る所。特定秘密保護法、安保法制と来て、憲法改正し戦前の「美しい日本」に回帰するのを目指すのか。以前は自民党の中にもリベラル派がいたが、今はもの申す人はいない。いつからそうなったのか。小泉政権の郵政民営化選挙の時、政府案に反対する候補にはことごとく刺客が送られて冷や飯を食わされた。議員にとって議席を失うのが何より怖い。信念より議席。今のお友達内閣、どんなお友達なのか、今回の森友学園事件でも明らかだろう。憲法学者は言う。法は人類の失敗の歴史から生まれたチェックリスト。憲法は、国家が権力を乱用し人々を苦しめた歴史から、国家の失敗を防ぐ工夫を定めたリスト。失敗の歴史に学ばない政治家は要らない。失敗といえば、原発についても、直ちに廃止して再生可能エネルギーに方針転換すべきと思う。それには莫大なコストがかかると思うが、原発にいくら安全基準を設けても、想定外のことが起こればひとたまりもない。それでなくても核廃棄物は貯まる一方で、処理も貯蔵施設もできないでいる。廃炉費用も莫大になるだろう。電気代も高騰するだろう。産業にも影響するだろう。でも少しでも負の遺産を増やさない努力をすべき。われわれにとって当然医療が大事ではあるが、以上二つ、子々孫々のため、もっと大事な事と思っている。